

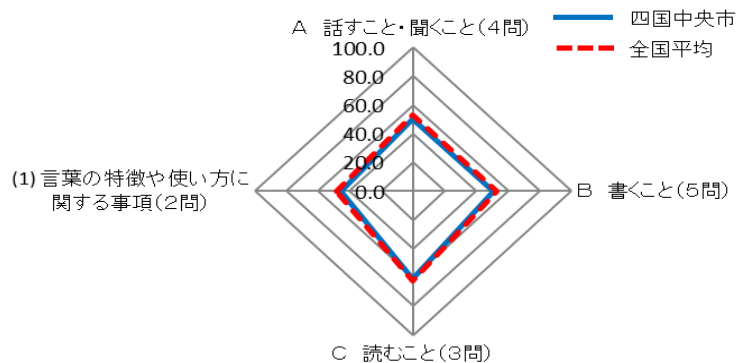
令和7年度全国学力学習状況調査の結果について四国中央市の中学生の状況についてお知らせします。

1 学力の状況

国語科と数学科のレーダーチャートは、各領域における正答率を示しています。項目の後の()内の数字は、対象問題数を表しています。問題によっては、複数の項目に含まれる場合があります。理科のレーダーチャートは、全ての生徒が解答した共通公開問題(6問)について、問題ごとに全国の平均正答率と市の平均正答率との差を比較したのになっています。

国語科、数学科のほとんどの項目が昨年度に比べて全国平均との差が小さくなっていますが、国語科、数学科、理科の公開問題において、全国平均を下回っています。それぞれの分析は以下の通りです。

国 語

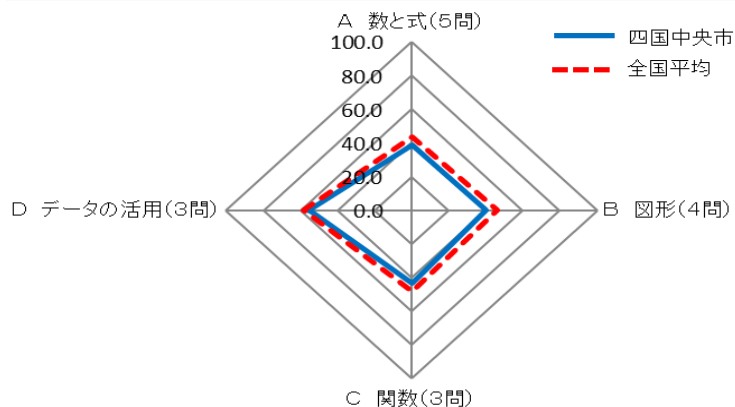


【国語分析】

「書くこと」の領域の、目的に応じた、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる問題においては、全国平均を上回っていました。ICTを有効活用し、自分の考えをまとめたり、読み手の立場に立って表現の効果を工夫したりする力が向上しています。

一方、「話すこと・聞くこと」の領域の、自分の考えが明確になるように、話の構成を工夫したり、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫したりすることについて課題がありました。今後は、ICTも有効に活用しながら、自分の考えをまとめたものを基に、話し合う、伝え合う活動を取り入れ、表現力の育成に努めていきます。

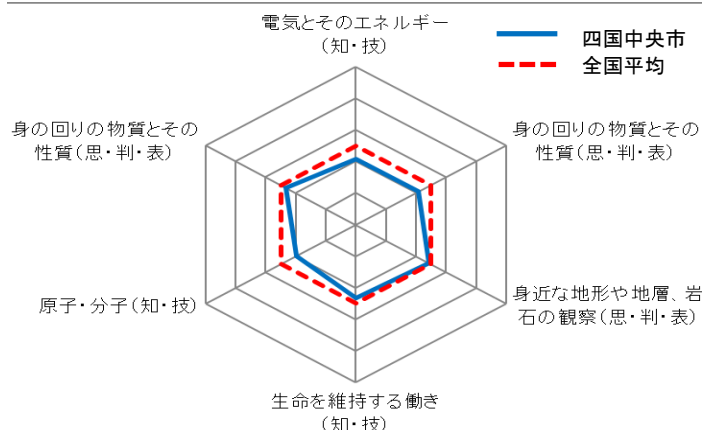
数 学



【数学分析】

全ての領域において、正答率は全国平均を下回っており、課題が見られます。特に、「図形」の領域の統合的・発展的に考える問題と「数と式」の領域の基本的な知識を問われる問題や理由を説明する問題に課題が見られました。引き続き、ドリル学習による基礎的・基本的な知識及び技能の定着に努めていくとともに、ICTを活用して、多様な考え方に触れる活動を重視し、思考力の向上を目指していきます。また、計算の仕方や考え方を説明する場面を設け、端末やホワイトボードを活用して、自分の考えを分かりやすく伝える活動に力を入れ、表現力の育成にも努めていきます。

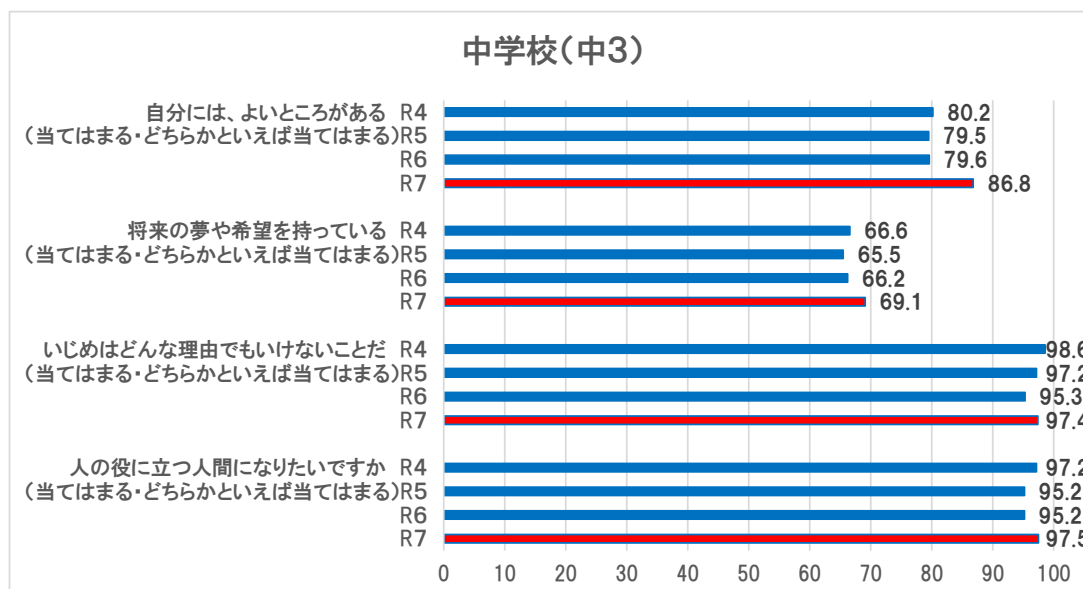
理 科



【理科分析】

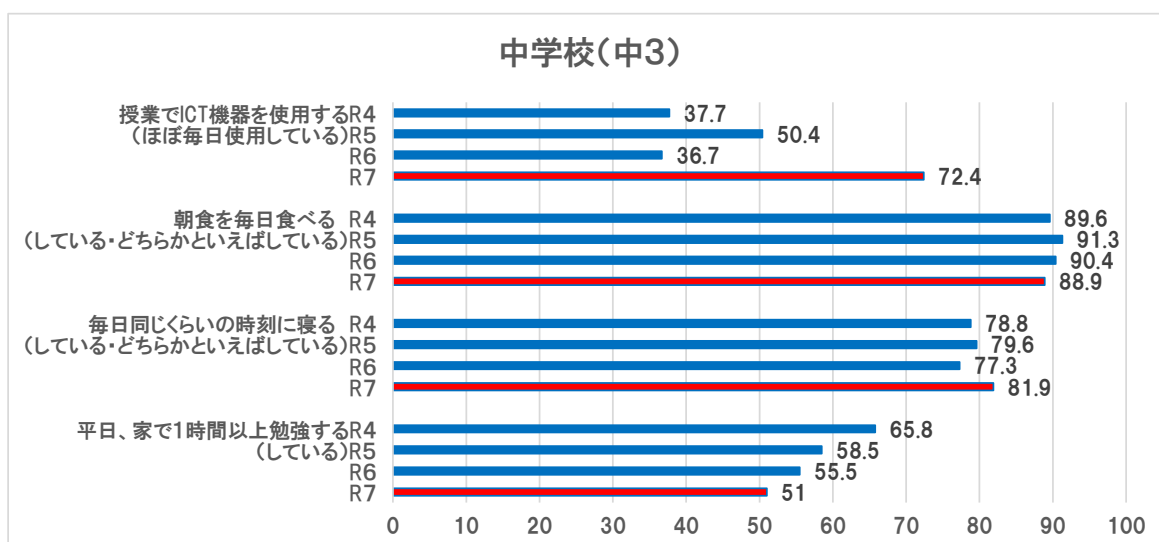
今年度は理科が調査されました。全ての生徒が解答した共通公開問題において、「身近な地形や地層、岩石の観察」「生命を維持する働き」に関して、全国の平均正答率と差が小さくなっています。「原子・分子」については、全国平均と差が大きく、課題が見られます。今後は、実験・観察といった実際に体験する学習も大切にしながら、1人1台端末を活用して、実際には見えない部分やできない実験も確認しながら学習を進めていきます。また、ICTを活用して、実験結果や考察等を共有し合い、思考力、判断力、表現力の向上を目指します。

2 心の状況



3 生活習慣の状況

※生活の中にICT機器が大きく関わってきていることと、GIGAスクールの実現による確かな学力を基盤とした未来を拓く力の育成を目指している本市として、授業でのICT活用についての項目を掲載しています。



【分析】

心の状況については、全ての項目において、昨年度を上回る結果となりました。特に「自分にはよいところがある」の項目で、大きく上回っており、子どもたちの「自己肯定感・自己有用感」の高まりを感じます。今後も互いに認め合う活動や学校行事等を通じて、自他を大切にする生き方ができるよう取り組んでまいります。

生活習慣の状況については、「毎日同じくらいの時刻に寝る」が昨年度を大きく上回りました。規則正しい生活習慣の定着に向けて、ご家庭で取り組んでいただいている成果ではないかと思われます。一方、「朝食を毎日食べる」「平日、家で1時間以上勉強する」がここ数年減少傾向になっていることが気になります。全国平均も下回っています。1人1台端末を活用した課題の提示方法の工夫など生徒の意欲を高め、自主的に学習に取り組めるよう改善していきます。

授業におけるICT機器の使用については、全国平均を大きく上回っております。ICTの有効性を見極め、様々な場面で活用されていることが伺えます。今後は1人1台端末の有効活用とともに、実際に書いたり、それを基に話し合ったりする従来の活動をうまく組み合わせた授業づくりに取り組み、「分かる、楽しい」授業を進め、生徒の学習意欲向上に努めていきます。